

多様な学びの支援
～新学習指導要領
「障害の状態等に応じた
指導内容や指導方法の工夫」
を実現するために～

十文字学園女子大学
准教授 齋藤 忍



独立行政法人教職員支援機構

目次

- ◆ はじめに
- 1. 障害の状態等に応じた
指導内容や指導方法の工夫とは
- 2. 視点を変えよう
- 3. 指導の工夫を考えるために
- 4. 各教科等における配慮の例
- ◆ おわりに
- ◆ 演習

はじめに

新学習指導要領に示された 特別支援教育 5 つのポイント

- (1) 障害の状態等に応じた
指導内容や指導方法の工夫
- (2) 特別支援学級における特別の教育課程
- (3) 通級による指導における特別の教育課程
- (4) 個別の教育支援計画や個別の指導計画の
作成と活用
- (5) 障害のある幼児児童生徒との交流及び
共同学習

1. 障害の状態等に応じた 指導内容や指導方法の工夫とは

障害の種類や程度によって一律に指導内容や指導方法が決まるわけではない。

- ・ 児童一人一人の障害の状態や特性
- ・ 心身の発達の段階等



学習上又は生活上の困難が異なる



個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を検討し、適切な指導を行う。

※ 個に応じた指導を充実させるために

① 学びの過程で考えられる【**困難さの状態**】を把握し、

② 【**指導上の工夫の意図**】を明確にもった上で、

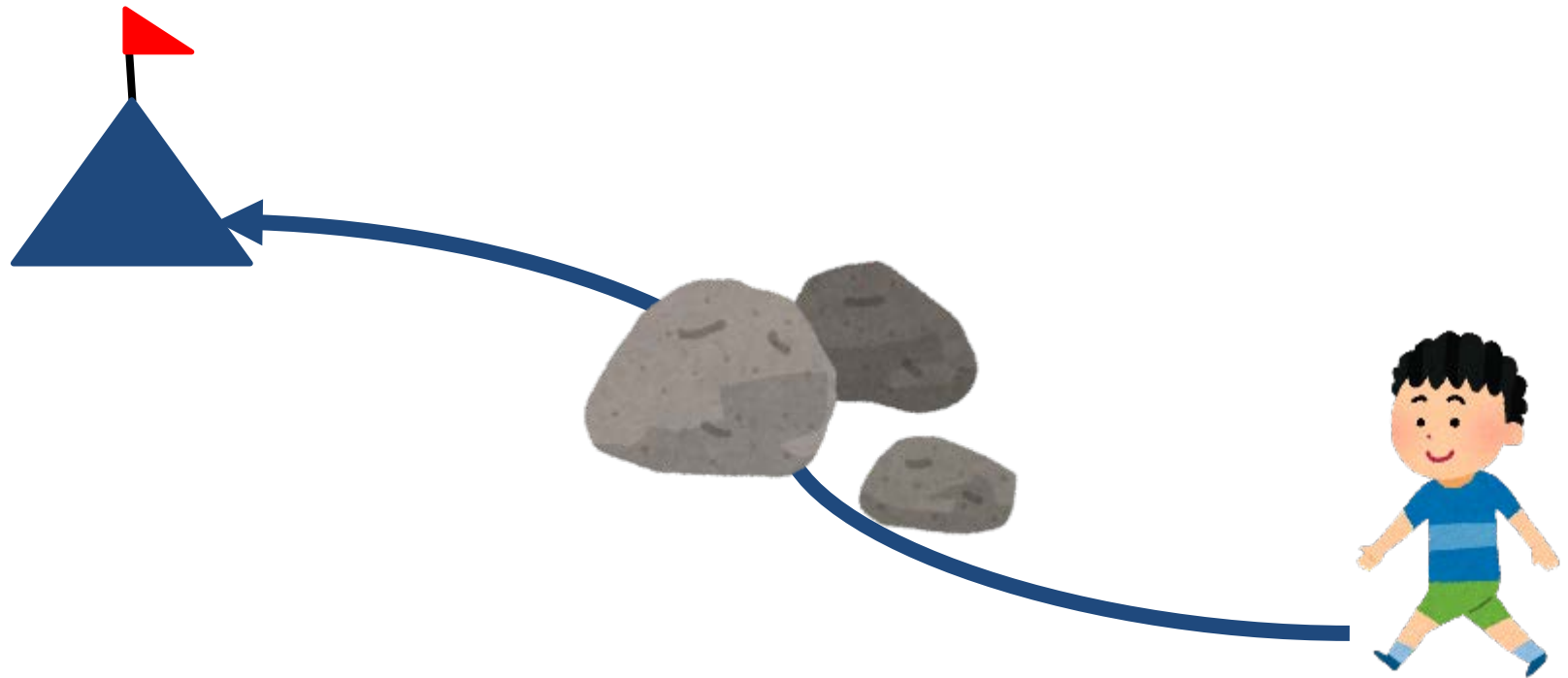
③ 【**手立て**】を講じる

ことが重要である。

「困難さの状態」を把握し、
「指導上の工夫の意図」を持った上で、
「手立て」を講じる



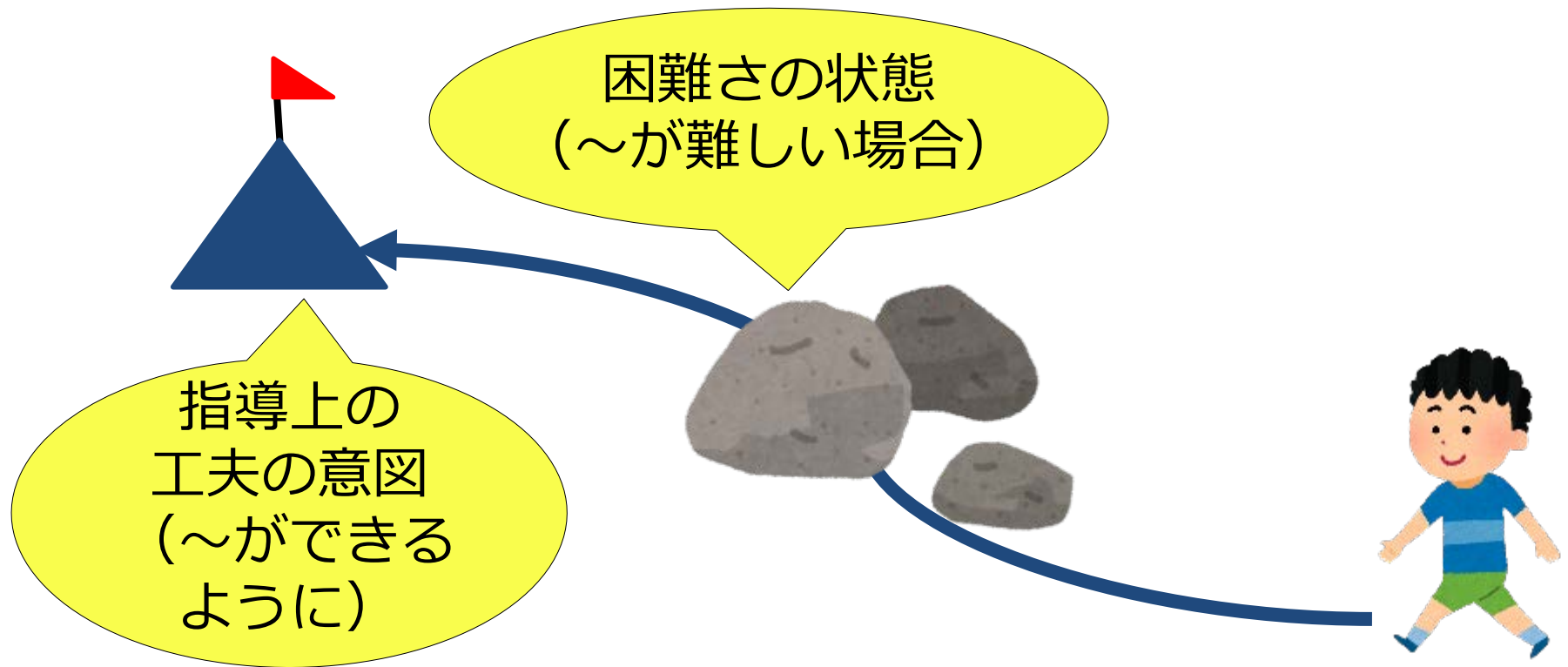
「困難さの状態」を把握し、
「指導上の工夫の意図」を持った上で、
「手立て」を講じる



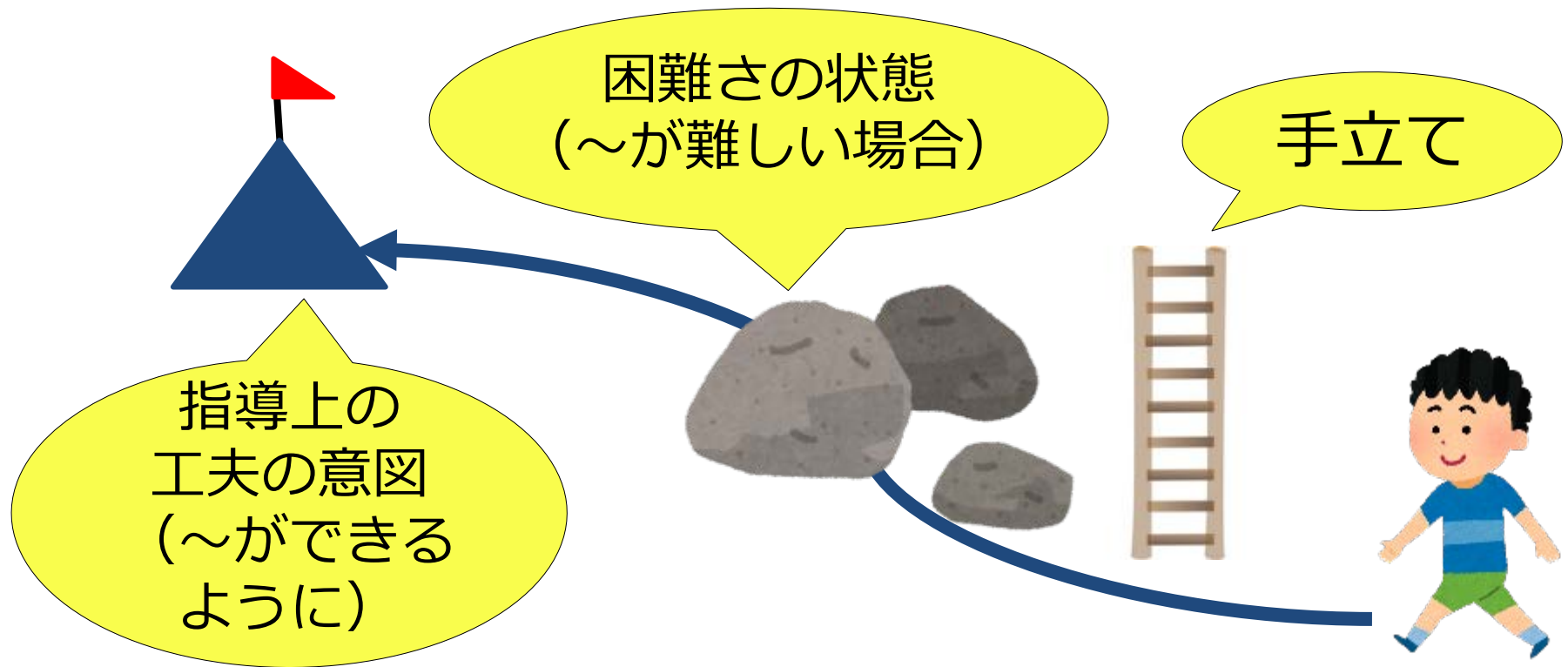
「困難さの状態」を把握し、
「指導上の工夫の意図」を持った上で、
「手立て」を講じる



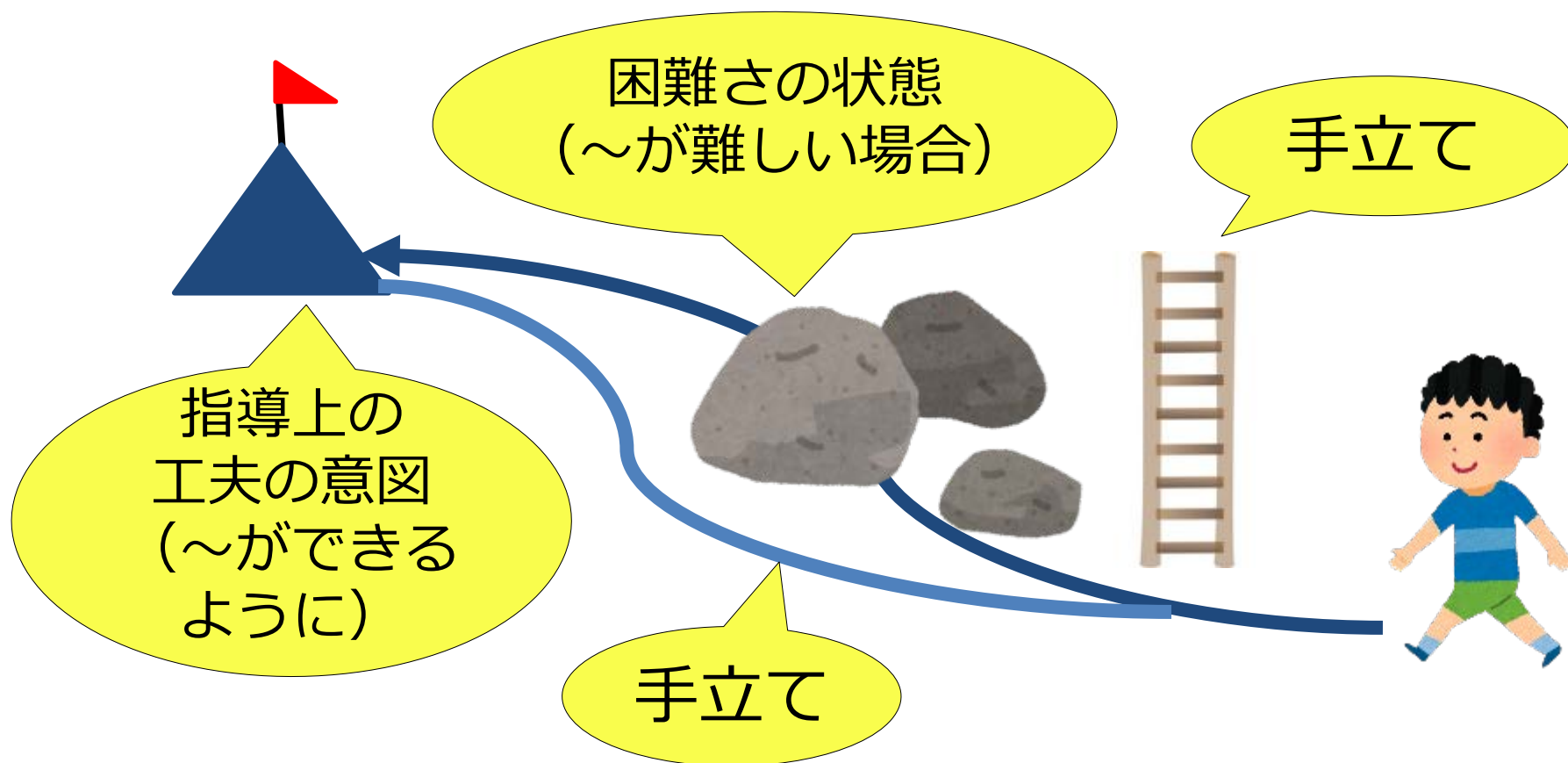
「困難さの状態」を把握し、
「指導上の工夫の意図」を持った上で、
「手立て」を講じる



「困難さの状態」を把握し、 「指導上の工夫の意図」を持った上で、 「手立て」を講じる



「困難さの状態」を把握し、 「指導上の工夫の意図」を持った上で、 「手立て」を講じる

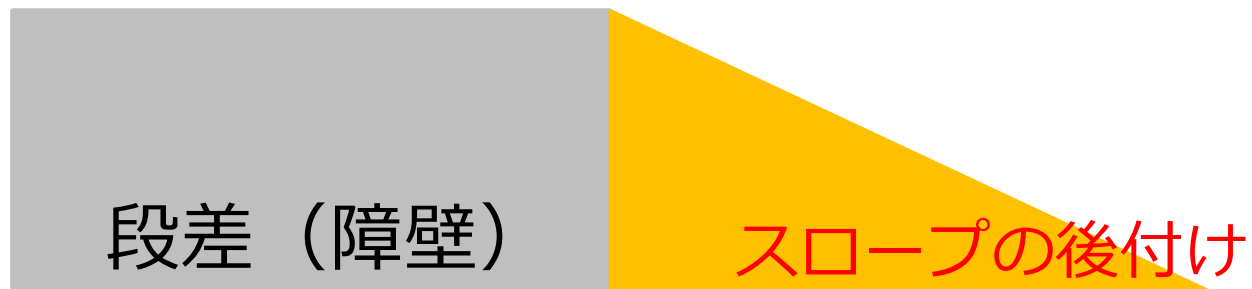


2. 視点を変えよう

段差（障壁）



2. 視点を変えよう



2. 視点を変えよう

平均的な児童に合わせた授業
画一的な学習方法・教材教具

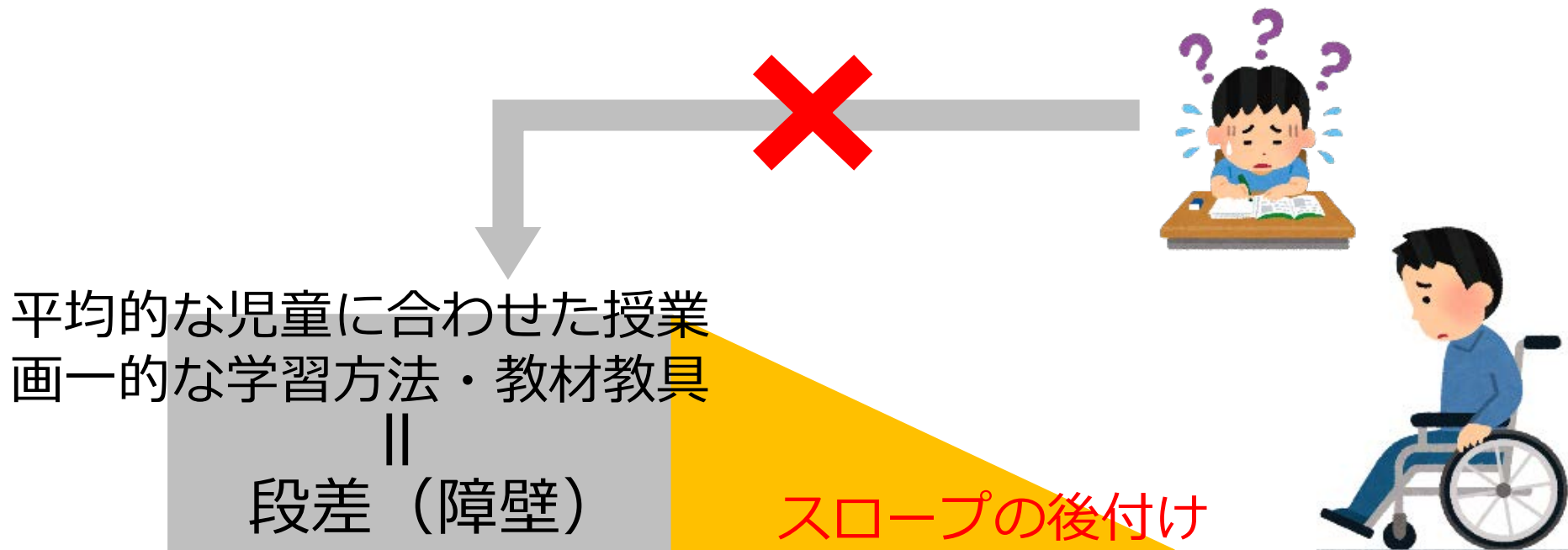
||
段差（障壁）

スロープの後付け



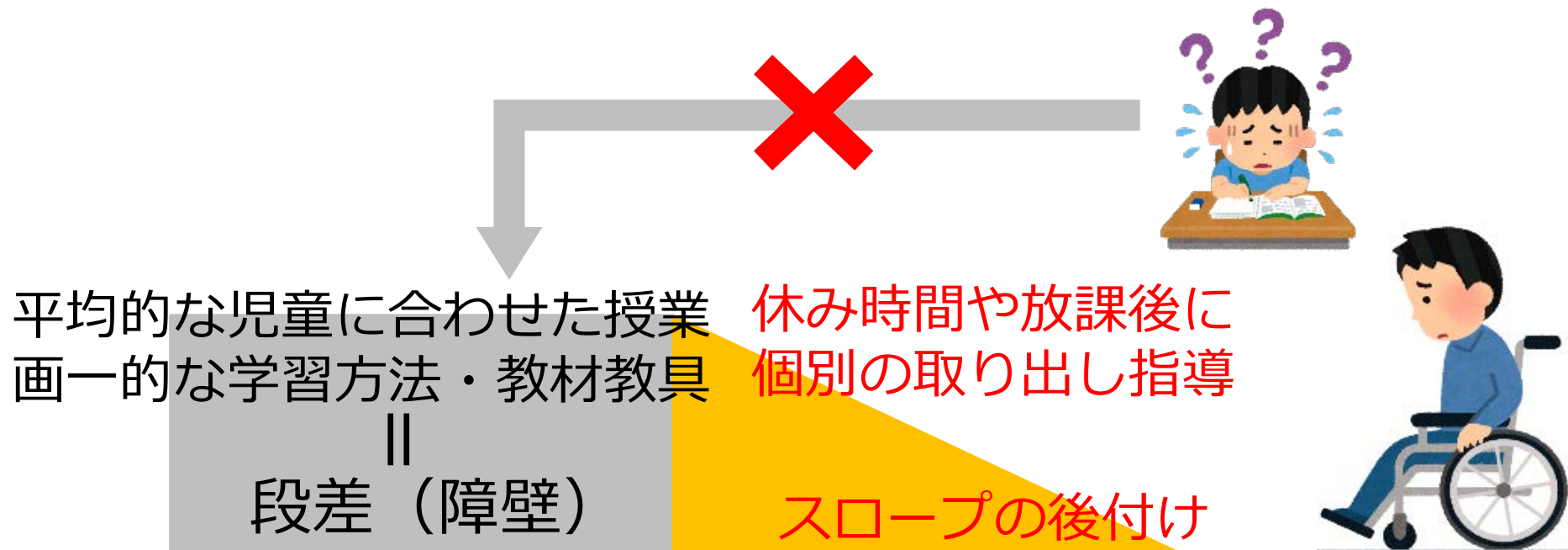
2. 視点を変えよう

認知の偏りの大きな
発達障害の子どもたち



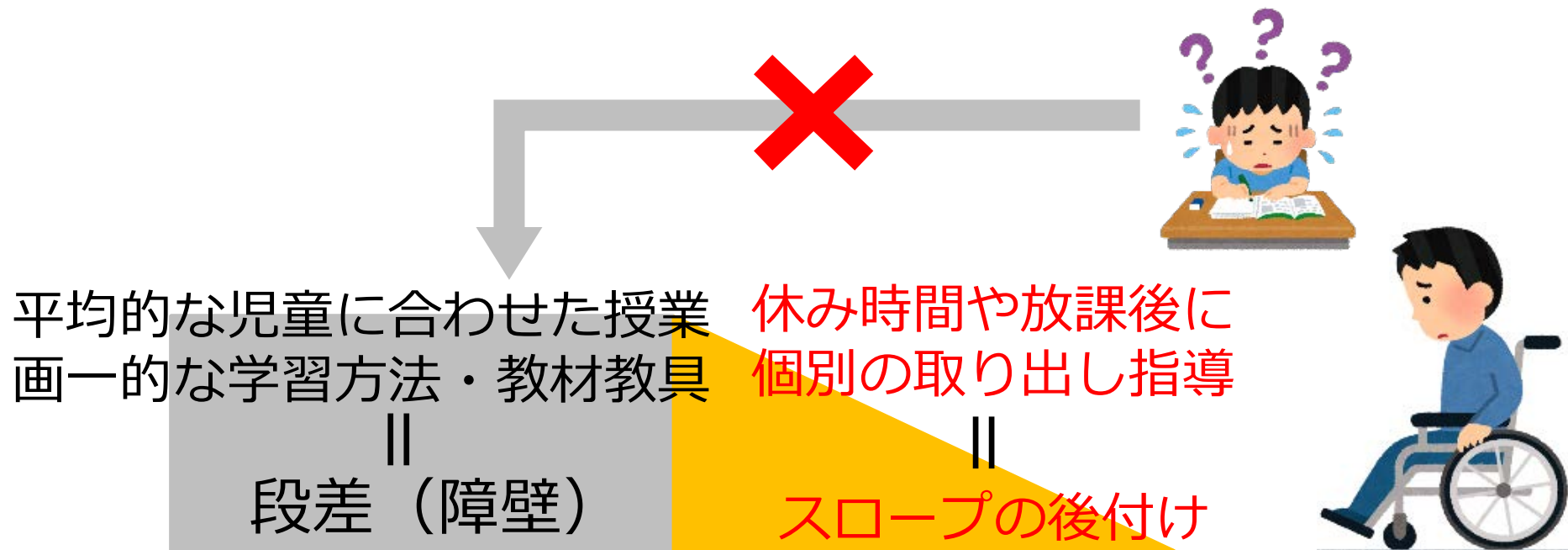
2. 視点を変えよう

認知の偏りの大きな
発達障害の子どもたち



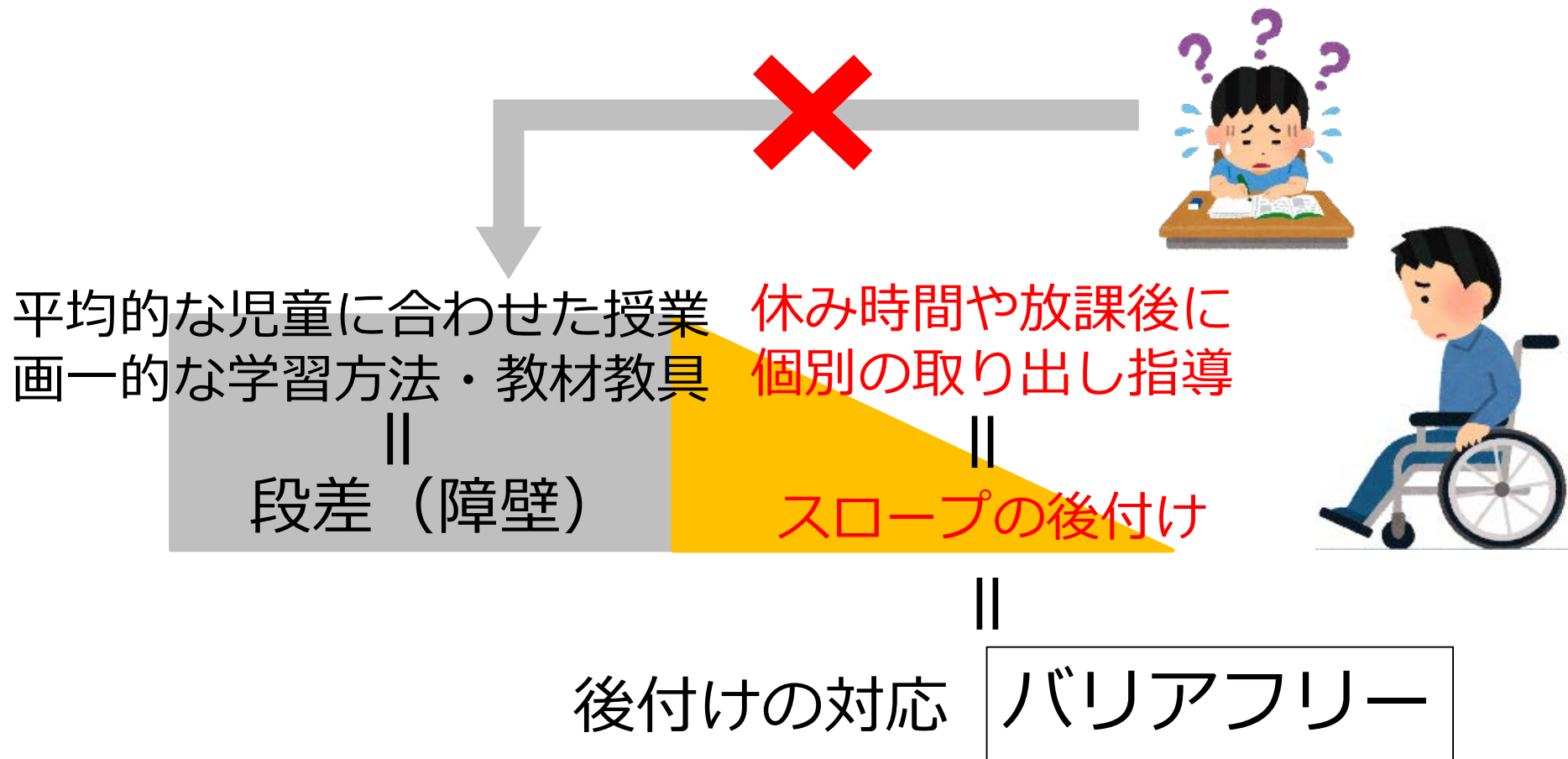
2. 視点を変えよう

認知の偏りの大きな
発達障害の子どもたち



2. 視点を変えよう

認知の偏りの大きな
発達障害の子どもたち





スロープ・エレベーター
・階段昇降機 など





スロープ・エレベーター
・階段昇降機 など



教室の中に様々な多様性が存在することを
前提として、学習方法・教材教具について
あらかじめ様々なオプションを準備



スロープ・エレベーター
・階段昇降機 など



教室の中に様々な多様性が存在することを
前提として、学習方法・教材教具について
あらかじめ様々なオプションを準備



スロープ・エレベーター
・階段昇降機 など



教室の中に様々な多様性が存在することを
前提として、学習方法・教材教具について
あらかじめ様々なオプションを準備

先取りの支援



スロープ・エレベーター
・階段昇降機 など



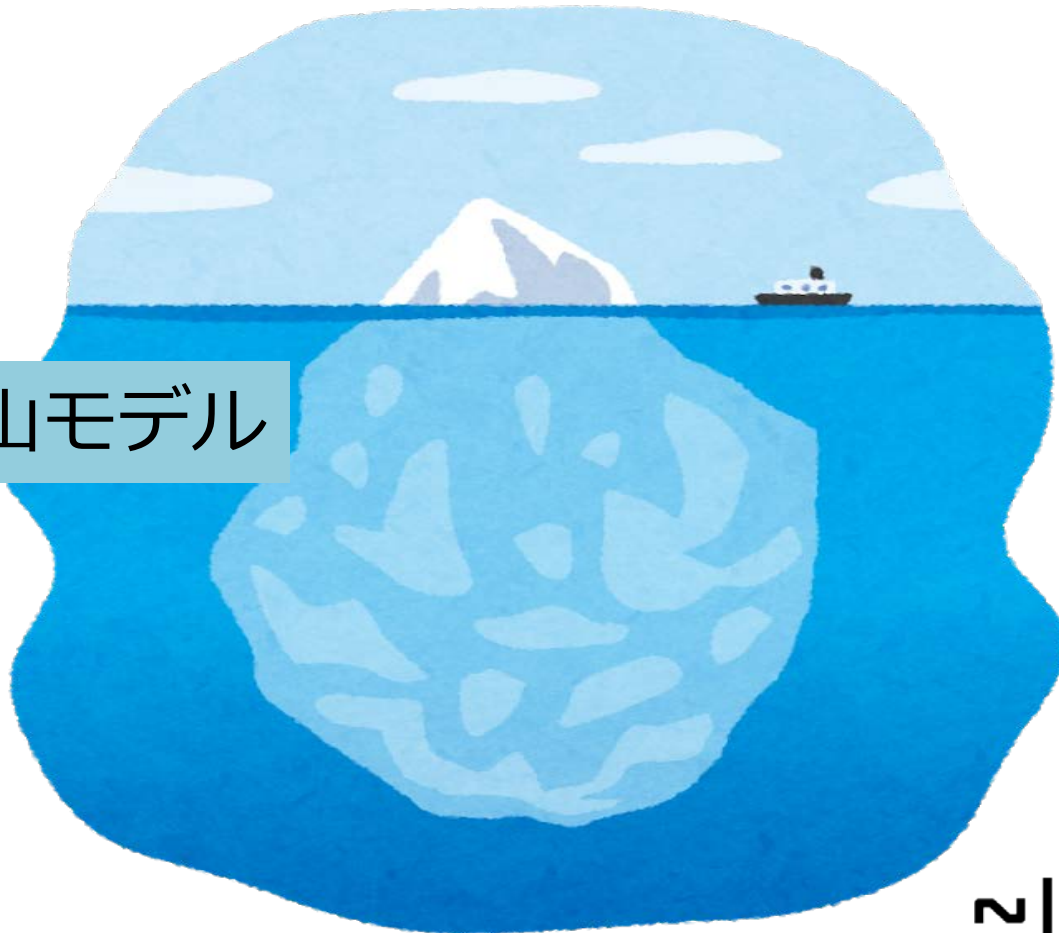
教室の中に様々な多様性が存在することを
前提として、学習方法・教材教具について
あらかじめ様々なオプションを準備

先取りの支援 =

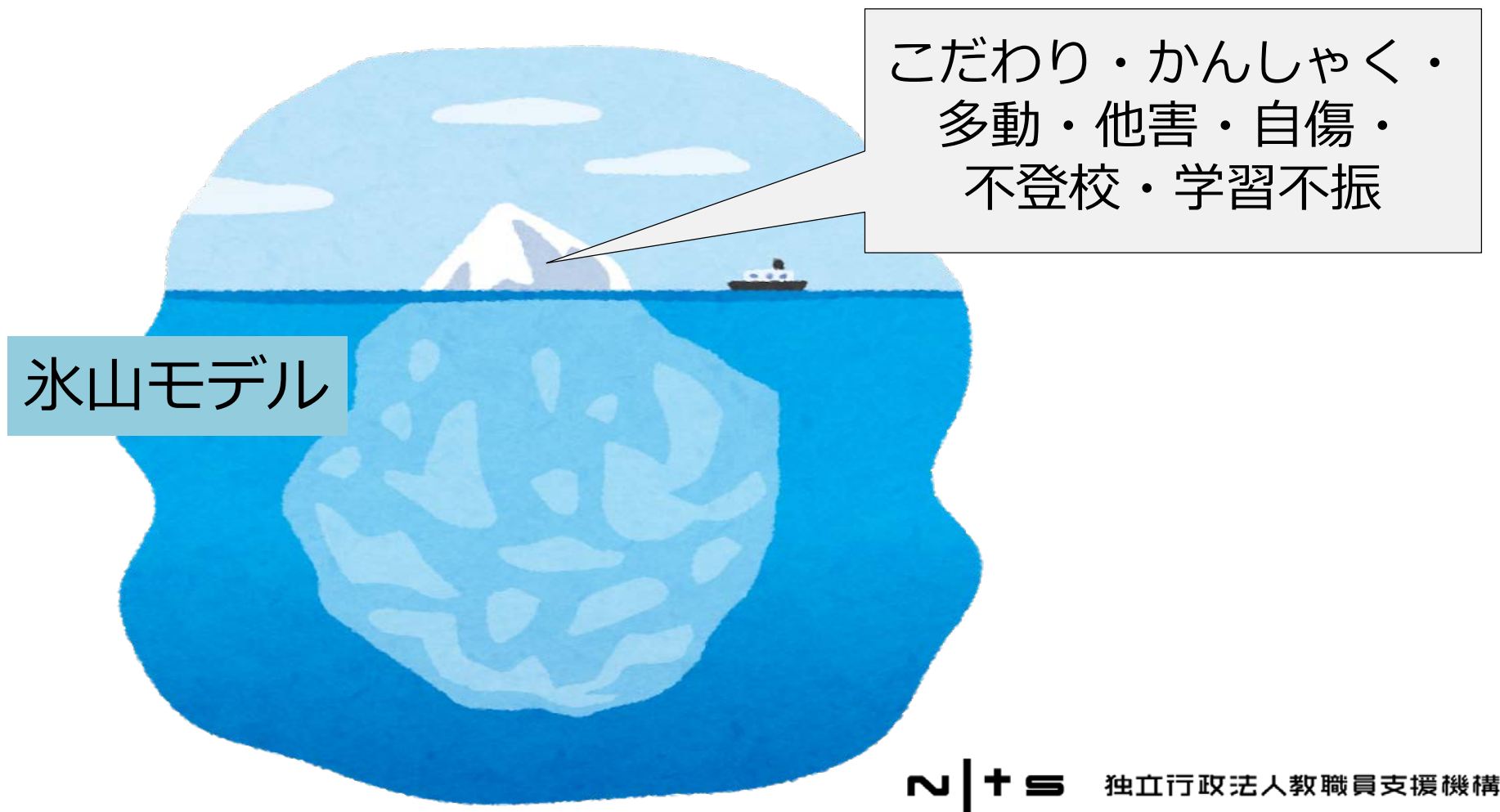
ユニバーサルデザイン

3. 指導の工夫を考えるために

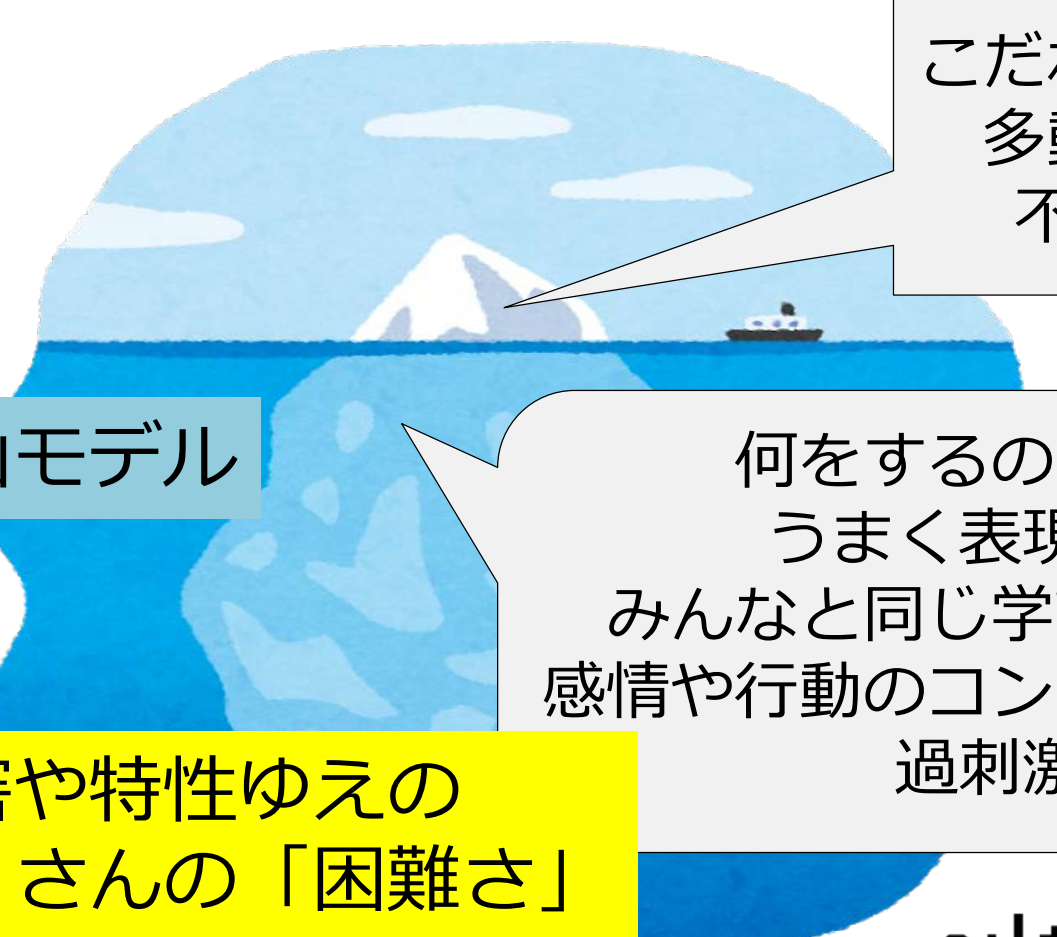
冰山モデル



3. 指導の工夫を考えるために



3. 指導の工夫を考えるために

The diagram illustrates the 'Iceberg Model' of student difficulties. It features a large blue iceberg floating in a blue sea. The tip of the iceberg, which is visible above the water, is light blue and contains a small white mountain peak. A small white ship is visible on the water's surface near the tip. The submerged part of the iceberg, which is much larger, is a darker blue and contains a white mountain peak. Two speech bubbles point to the visible and submerged parts of the iceberg. The visible part points to a list of behaviors, and the submerged part points to a list of underlying difficulties.

こだわり・かんしゃく・
多動・他害・自傷・
不登校・学習不振

冰山モデル

何をするのか分からない
うまく表現ができない
みんなと同じ学び方では学べない
感情や行動のコントロールができない
過刺激で嫌だ

障害や特性ゆえの
たくさんの「困難さ」

3. 指導の工夫を考えるために

問題行動：子どもからのメッセージ
「わかりません」「こまっています」「たすけてください」

ヘルプサイン

こだわり・かんしゃく・
多動・他害・自傷・
不登校・学習不振

冰山モデル

何をするのか分からない
うまく表現ができない
みんなと同じ学び方では学べない
感情や行動のコントロールができない
過刺激で嫌だ

障害や特性ゆえの
たくさんの「困難さ」

特別支援教育コーディネーター・特別支援 学級担任・通級指導教室担当の出番

(1) 本人が抱える障害特性や認知特性を 理解する

- 校内研修で（心理的疑似体験等）
- 校内委員会・ケース検討会で
- 心理アセスメントの結果から
- 保・幼・小・中等：縦の連携
保健・医療・福祉・労働等：横の連携
による情報から
- 「個別の教育支援計画」
「個別の指導計画」から



(2) 一人一人が特に苦手なことを理解する

- どんな学習活動でつまづくのか
 - どの段階でつまづくのか
 - 要因となるものは何なのか
 - 配慮支援で改善できるのか
トレーニングで改善するのか
代替手段が必要なのか
- 合理的配慮に



試行錯誤・臨機応変
個々の子どもに合う支援の方法を見つける

(3) 「強い力」を生かし伸ばす

- 得意なこと・強い力
将来の進路選択にも直結
- 「強い力」で弱点をどう補うかを
子どもと共に考える
- 「ぼくにはこんなところがある
けれど、こうすれば大丈夫」



自分に合った学習スタイルの獲得
自己理解・自己支援力の獲得

(4) 「手立て」を考える4つのアプローチ
米国CAST「学びのユニバーサルデザイン (UDL)
ガイドライン Ver2.0」 (2011) より

- **Option (複数の方法)** : 自分に最も合うやり方を選ぶように、同じねらいを達成させられる学習方法等の選択肢を複数用意しておくこと。(例: レポートまたは口頭発表)
- **Alternative (代替手段)** : ある方法に代わる、別の方法で同じ目的が達せられるもの。(例: 筆記の代わりにPCで入力)

- **Scaffolding（足場的支援）**：あるスキルを習得するまでの期間、必要に応じて利用できる援助。（例：手順を覚えるまで、いつでも参照できる手順表）
- **Customize（調整）**：自分の使いやすさや好みに合わせて、大きさ、速さ、色などを変更や調節ができること。（例：文字のフォント、問題の難易度や量の調節）

(5) 子どもの困難さを予測するために・・・

主な学習活動 や教材等	誰がどのように 学びにくくなるか	どんな手立てを 用意するか
文章問題を読んで、 課題をつかむ。	A児： 読みの困難さがあり、文章問題のイメージがつかみにくい。	文章問題の状況をイメージできるように、具体物（分ける飴・分けるための袋）を用意する。
わり算の手続きを見 つけ出す。 ・一人で ・グループで協議 ・全体で共有し、わり 算の手続きを整理	B児： 数字や演算子の記号など、抽象的な視覚情報の理解と操作が苦手であり、数字を操作してわり算の手続きを考えることが難しい。	ノートに、絵・テープ図・数直線等を描いて考え、それをもとに、文章や口頭で説明してもよいことを伝える。 テープ図や数直線を自分で書くことが難しい場合には、基本となるものを書いたワークシートを準備し配付する。
まとめをし、適用問 題で習熟を図る。	C児： かけ算九九の意味は理解しているのに、正確に暗唱することが難しいため、わり算の手続きが理解できても、商を正しく導き出すことが難しい。	わり算をする過程でかけ算をミスし、商を誤ることのないよう、かけ算九九表を用意する。

4. 各教科等における配慮の例

困難さの状態・指導上の工夫の意図・手立て

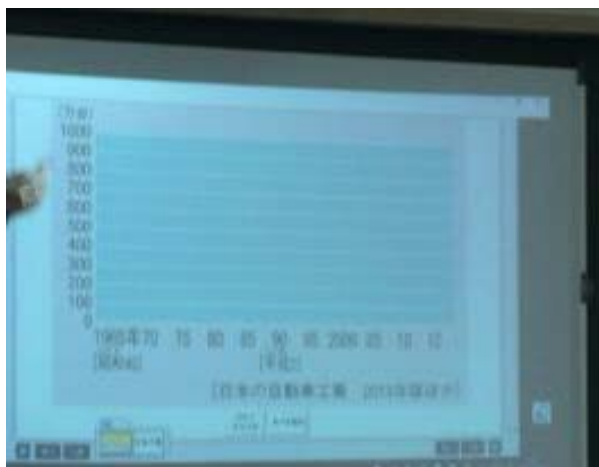
事例 1 国語科

- (困) 自分の考えや思いを文章表記して表現することが困難な場合、
- (意) 多様な表現方法を工夫し、自分の考えを表すことに対する自信がもてるよう、
- (手) 図や絵を描いたものを提示したり、ICT機器を活用して発表したりするなど



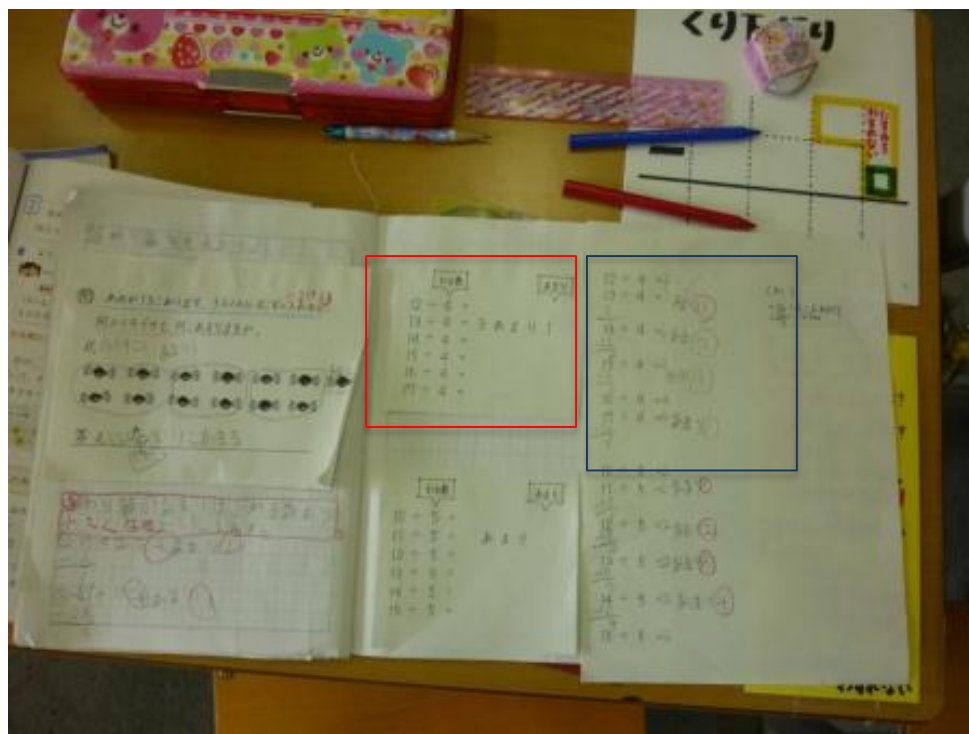
事例 2 社会科

- (困) 地図等の資料から必要な情報を見つけ出したり、読み取ったりすることが困難な場合、
- (意) 読み取りやすくするために、
- (手) 地図等の情報を拡大したり、見る範囲を限定したりして、掲載されている情報を精選し、視点を明確にするなど



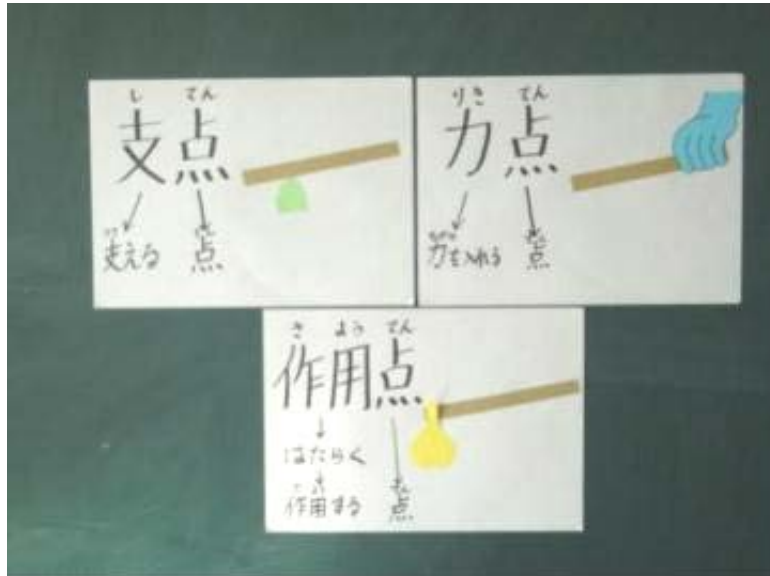
事例 3 算数科

- (困) 作動記憶の弱さから、簡単な計算を暗算することが難しい場合、
- (意) 視覚情報を手がかりに正しく計算することができるよう、
- (手) 筆算するスペースを確保したり、計算用紙を準備したりするなど



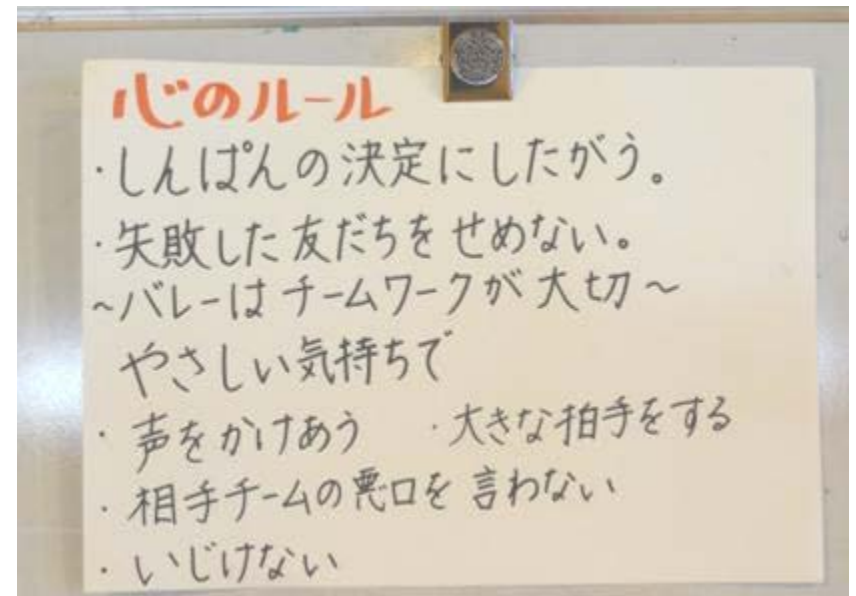
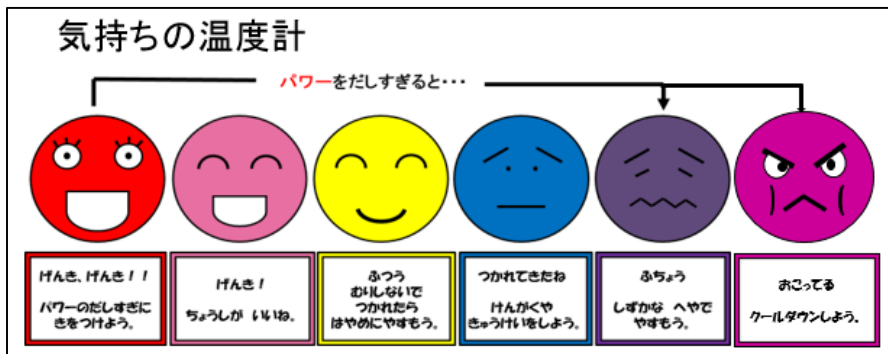
事例 4 理科

- (困) 日常使用することが少なく、抽象度の高い言語の理解が困難な場合、
- (意) 具体的にイメージをもつことができるよう、
- (手) 既習の言葉や分かる言葉に置き換えるなど



事例 5 体育科

- (困) 勝ち負けにこだわったり、負けた際に感情を抑えられなかったりする場合、
- (意) 考えたことや思ったことをすぐに行動に移してしまったりすることがあることから、
- (手) 勝ったときや負けたときの表現の仕方を事前に確認したりするなど



事例 6 特別の教科 道徳

- (困) 他者との社会的関係の形成に困難がある児童の場合、相手の気持ちを想像することが苦手で字義通りの解釈をしてしまうことがあることや、暗黙のルールや一般的な常識が理解できないことがあることなど困難さの状況を十分に理解した上で、
- (意) 他者の心情を理解するために
- (手) 役割を交代して動作化、劇化したり、ルールを明文化するなど、学習過程において想定される困難さとそれに対する指導上の工夫が必要



事例 7 特別活動

(困) 学校行事における避難訓練等の参加に対し、強い不安を抱いたり戸惑ったりする場合、

(意) 見通しがもてるよう、

(手) 各活動や学校行事のねらいや活動の内容、役割(得意なこと)の分担などについて、視覚化したり、理解しやすい方法を用いたりして事前指導を行うとともに、周囲の児童に協力を依頼しておく。

5:15 (レストラン)



夕食バイキング
マナーを守って バランスよく

<食事係>

- ☐ あいさつ「いただきます」「ごちそうさまでした」
- ☐ テーブルをふく
- ☐ いすをならべる

① 手あい・うがい



② レストランへ

③ おぼんをとる ※順番に ならぶ

④ おかずを食べられる分だけ とる

他の人も 食べたいので、
すきなものを 一人で
たくさんとらない

食べすぎると あとで
おなかが いたくなります



⑤ そば・うどん・ごはん などの
主食を えらぶ

たべすぎない
のみすぎない

⑥ のみものを えらぶ

のみすぎると、夜
おねしょを します

⑦ 班のみんなが
そろったら、
「いただきます」

奥から つめて
すわりましょう

⑧ 静かに おいしく いただきます

- ※ 小さな声で 話す
- ※ よくかんで 食べる
- ※ おかわりは、ほどほどに・・・
みんなのことも 考えて・・・
- ※ みんなが 食べ終わるまで
席を 立たない

事例 8 失敗に学ぶ

② わり算をしましょう。 (4 10 点)

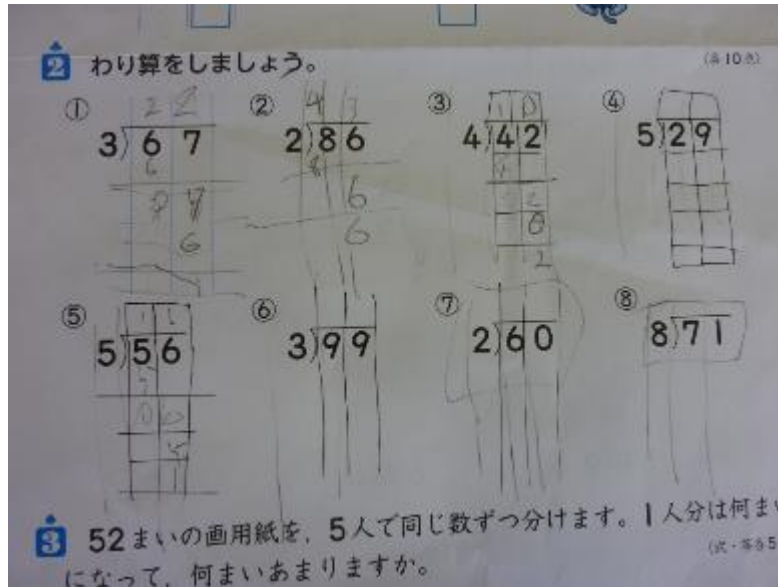
① $3 \overline{) 67}$
② $2 \overline{) 86}$
③ $4 \overline{) 42}$
④ $5 \overline{) 29}$
⑤ $5 \overline{) 56}$
⑥ $3 \overline{) 99}$
⑦ $2 \overline{) 60}$
⑧ $8 \overline{) 71}$

③ 52まいの画用紙を、5人で同じ数ずつ分けます。1人分は何まい
になって、何まいあまりますか。 (2 点・答え 5)

「こんなの、ぼくには
できないよ！」と拒否



事例 8 失敗に学ぶ

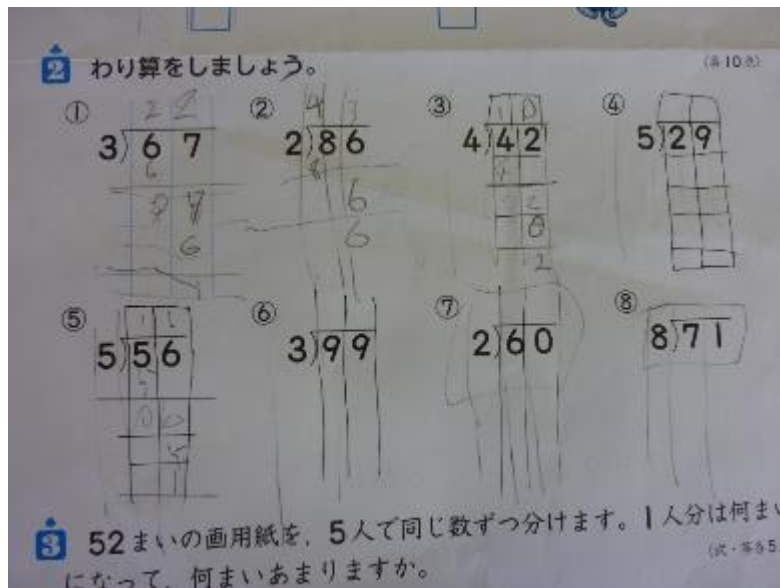


「こんなの、ぼくには
できないよ!」と拒否



「計算ノートを使ったら、
ぼくもできたよ!よし、
今度は、自分で!!」

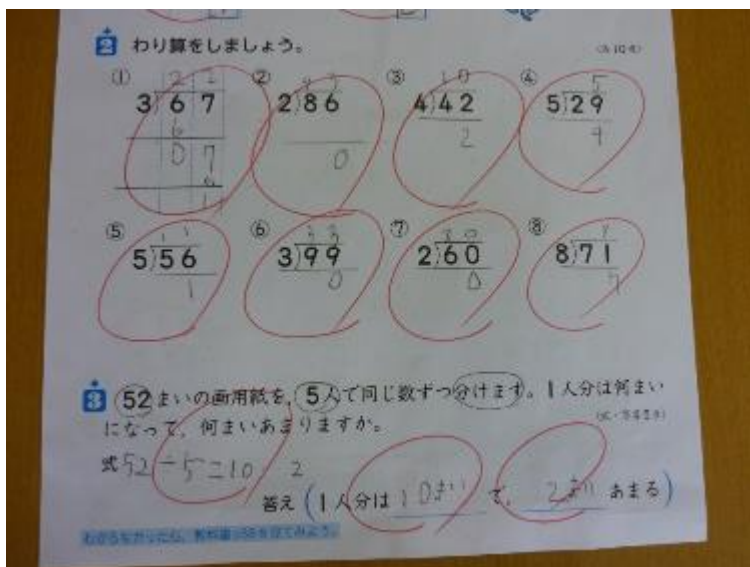
事例 8 失敗に学ぶ



「こんなの、ぼくにはできないよ！」と拒否



「計算ノートを使ったら、ぼくもできたよ！よし、今度は、自分で！！」



おわりに

教室の中には 様々な多様性があり
どの子にも 学ぶ権利があり
「分かるようになりたい」
「できるようになりたい」
と 思っています＊

障害の状態等に気づき
みんなが分かる・できる・楽しい授業
を 考えていきましょう！！

演習課題

次のような児童に対し、障害の状態等に応じた指導としてどのような工夫を講じるか、「困難さの状態」「指導上の工夫の意図」「手立て」について考えましょう。

■ ケース 1

かけ算の意味（乗数が 1 増えると積は被乗数の分だけ増える）は分かっているのに、何度唱えて練習しても、九九を正しく唱えられない。

■ ケース 2

わり算の筆算の手順（たてて・かけて・ひいて・おろす）は分かっているのに、頭の中で、立てる数（商）を見積もることが難しい。